

## 卒業論文・卒業研究の要旨

論文題目	防災備蓄品の環境負荷低減に関する研究
氏名	野田 咲桜
メジャー	環境学
マイナー	法・政治学
<p>(要旨)</p> <p>本研究は、防災備蓄品における環境負荷の現状と課題を明らかにし、環境負荷低減に向けた備蓄品の選定および運用方法の改善策を提案することを目的としたものである。日本では大規模災害を契機に防災備蓄の整備が進んできたが、食品や衛生用品などの備蓄品は賞味期限・使用期限切れにより未使用のまま廃棄されるケースが多く、食品ロスや資源の無駄が深刻な問題となっている。また、使い捨て製品の多用は災害時の衛生管理上必要である一方、廃棄物増加による環境負荷が懸念される。</p> <p>本研究では、東京都・神奈川県の基本自治体4団体の備蓄品の選定基準と廃棄の実態を調査し、自治体間で共通する課題として、①備蓄品の更新時における廃棄量の多さ、②環境配慮型製品の導入の遅れ、③再利用・寄付の仕組みの不足を明らかにした。また、桜美林大学の帰宅困難者用備蓄の事例調査を通じ、備蓄品選定における「必要性・有効性」「コスト」「保管性」に比べ、環境負荷への配慮が優先順位として低く位置づけられている現状を確認した。</p> <p>さらに、備蓄品の素材や製造地(国内・海外)の比較、最近の備蓄品の傾向を整理し、環境負荷低減の観点から、①環境配慮型素材の採用、②ローリングストックの拡充、③フードバンク等との連携による廃棄削減、④再利用可能な備蓄システムの構築を提案した。本研究は、防災と環境配慮を両立させる持続可能な備蓄体制の構築に向けた基礎的知見を提供するものである。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>野田咲桜さんは、防災備蓄品の環境負荷という今日的かつ実務的な課題に対し、自治体調査・先行研究の整理・学内ヒアリングを組み合わせた多面的な分析を行い、卒業論文として高い完成度を示しました。特に、備蓄品の廃棄問題を環境負荷の観点から体系的に整理し、行政・大学・地域社会をつなぐ改善策へと論理的に展開した点は、学術的にも実務的にも意義のある成果です。</p> <p>論文は構成が明快で、資料の扱いも丁寧であり、調査結果を踏まえた考察や提案も説得力を備えています。防災と環境配慮を両立させるという新たな視点を提示した本研究は、今後の防災政策や備蓄運用の検討に資する内容であり、卒業研究として十分に評価できるものです。以上の理由から、野田さんの研究成果をここに推薦いたします。</p>	